

研究 I

令和4年度



生徒への配布はカラー印刷(5 ページのみ)

福井県立藤島高等学校

はじめに

1 SSHとは

(1) スーパーサイエンスハイスクール

SSHとは、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール事業で指定を受けた学校のことである。科学技術や理科・数学に関する興味・関心を持ち、知的好奇心、探究心を高め、論理的思考能力や創造力を伸ばせるような取組をする。令和3年度は、全国で218校が指定を受けている。

本校は第1期（平成16年度から平成20年度）、第2期（平成21年度から平成25年度）、第3期（平成26年度から平成30年度）の指定を受け、さらに2019年度から2024年度までの第4期目の指定を受けた。県内では他に、高志高校と武生高校がそれぞれ取り組んでいる。

(2) 藤島高校のSSHが目指すもの

ア 目的

希望ある未来社会を切り開くためには、社会の課題を自ら進んで見出し、粘り強く真理探究を推し進め、課題解決を図ることができる「研究力」と、様々な知識・経験を結びつけ、多様な視点を往還しつつ問題構造を俯瞰的に捉えることができる「厚みのある教養」を備えることが重要である。

本校は、その両者を併せ持った上で、未来社会での新たな価値を見出し、希望ある展望を他者と分かち合いながら意志決定や合意形成をリードしていくことのできる「創造力」を備えた科学技術系人材を育成する。加えて、本校のSSH事業の蓄積および取組・成果を県内外に広く発信し、科学技術系人材育成のための先進的な取組、および教養教育のモデルを波及させてゆく。

イ 目標

「創造力（＝主体的変革力）」を備えた未来社会のリーダーを育成するために、「藤島プラットフォーム」を構想し、以下を目標とする。

- －【各プログラムの高度化Ⅰ — 「研究力」「厚みのある教養」の養成—】
- －【各プログラムの高度化Ⅱ — 「更なる高み」を目指す事業展開—】
- －【校内指導体制の充実／藤島連携機関との共同でのプログラム開発・改善・発信】

(3) 2019年度からの本校での主な取組

全員対象	1年・・・学校設定科目「研究Ⅰ」 2年・・・学校設定科目「研究ⅡS」（理系SSHクラス） 「研究ⅡA」（理系） 「研究ⅡB」（文系） 3年・・・学校設定教科「研究Ⅲ」
希望者対象	○研究者招聘講座（卒業生を中心に） 理工医セミナー（第1，2学年希望者）、先端企業講演会（第1学年） ○先端科学エクスカッション事業 県内研修 若狭湾エネルギー研究センター研修（第2学年SSHクラス） 県内企業見学・研修（第1学年希望者） 県外研修 理化学研究所・つくば研修（第2学年希望者） ○国際性を高める取組 サイエンスダイアログ（1，2，3年生希望者） 「エンパワーメントプログラム」（1年生希望者） 「米国グローバルチャレンジプログラム」（2年生希望者） ・国際科学コンテスト、ふくい理数グランプリへの参加（全学年）

2 学校設定教科「研究」

(1) 教科目標

ア「研究Ⅰ」 《科目の目標》

3年間の課題研究活動における「仮説から検証」、「検証から分析」における基礎的なスキルを習得と、地域に根差したローカルな取組や課題から知識や視点を広げていくこと、さらに各取組の中で、情報リテラシーを活用し生徒の主体性・多様性・協働性を伸長させることを目標とする。

イ「研究Ⅱ」 《科目の目標》

「研究のサイクル」を繰り返すことで、研究の進め方を学び新たな課題を発見するなど、自らの問いに対し自発的に探究し続ける力を養う。また藤島連携機関からの協力・助言により、専門性の高い研究に取り組み視野を広げるとともに、自分の研究を他者に伝える力を養うことを目標とする。

ウ「研究Ⅲ」 《科目の目標》

各教科の知識や、様々な経験をつなぎ合わせるブリッジ科目である。最先端の科学技術を取り巻く倫理的・社会的問題に焦点を当て、「問題点を指摘→専門的な知識／ふまえるべき論点を学ぶ→文理・クラスの壁を取り払って議論→レポート執筆→相互評価」を行う。各教科の知識や課題研究で学んだことが相互に繋がって、多面的な視点から深く考える力を養い、更に文理クラスの区別を取り払っての議論の中で、様々な視点を踏まえて議論し、グループとしての合意形成を図る力を養う。以上の取り組みによって、課題に対する論点を整理し、多面的な視点を往還しつつ問題構造を俯瞰する視座を得、他者との議論・合意形成を図りつつ未来社会をリードする創造力を養うことを目標とする。

(3) 年間計画（予定）

月	日	曜	時数	内容
4	12	火	1	研究Ⅰオリエンテーションと社会が抱える課題
	19	火	1	世界が抱える課題①・ブレインストーミングについて
	26	火	1	世界が抱える課題②・SDGsの視点をういた整理
5	10	火	1	日本が抱える課題①グループ分け・ブレインストーミング
	13	金	1	日本が抱える課題②テーマ設定・構成
	31	火	1	日本が抱える課題③解決に向けて
6	7	火	1	プレゼン構成の意見交換
	14	火	1	プレゼン準備
	21	火	1	(プレゼン準備)
	28	火	1	プレゼン発表会(クラス)
7			1	プレゼン発表会(クラス)
			1	振り返り・アンケート(成績伝票提出前)・プレゼン準備(修正)
			1	プレゼン準備(修正)
8			1	校内発表会
9	6	火	1	校内発表会(予備・やることがないなら特時要望必要なし)
	13	火	1	ブックミーティングについて
	27	火	1	ブックミーティング(クラス)

月	日	曜	時数	内容
10	4	火	1	3講座展開A-1
	11	火	1	3講座展開A-2
	25	火	1	3講座展開B-1
11	8	火	1	3講座展開B-2
	15	火	1	3講座展開C-1
	22	火	1	3講座展開C-2
	29	火	1	研究オリエンテーション
12			1	飛田先生講演会
			1	先端企業講演会
1	10	火	1	研究オリエンテーション
	20	金	1	講座別活動①
	24	火	1	講座別活動②
	31	火	1	講座別活動③
2	7	火	1	講座別活動④
	21	火	1	課題研究発表会に向けて予習
	22	木	1	SSH課題研究発表会
3			1	振り返り・アンケート
			1	講座別活動⑤
	22	水		研究ⅡS最終発表会
	23	木		研究ブリッジ会

「ブレインストーミング KJ法」

ブレインストーミングとは、特定のテーマについて自由にアイデアを出し合う集団的発想法である。出されたアイデアをわかりやすくまとめる技法のひとつがKJ法である。

議論とは、同じものごとに対し、違った意見を出し合い、検討し合うことである。批判的思考（クリティカル思考）を養い、感情的にならず、お互いの考えを引き出す話し合いの姿勢を身につけたい。協調性のみならず、寛容的な態度、探求志向を高めてほしい。

KJ法とは

文化人類学者川喜田二郎氏が考案した創造的開発の技法。氏の頭文字から“KJ法”。

ブレインストーミングなどで出されたアイデアや意見などの情報を1枚ずつ小さなふせんに書き込み、それらのふせんの中から近い感じのするもの同士を2、3枚ずつ集めてグループ化していき、それらを小グループから中グループ、大グループへと組み立てて図解していく。こうした作業から、テーマの解決に役立つヒントやひらめきを生み出していこうとするものである。

☆第1段階：1つの事だけを1枚のふせんに

☆第2段階：グルーピングは先入観を持たずに直感で。 単独のふせんがあってもOK。

☆第3段階：図解形成での重要な関係を選定する作業で、問題の本質理解&議論が深まりを生む

☆第4段階：文章化 = 2次元図解の、1次元化

ブレインストーミング（BS）の4原則

- 1 「批判をすな」：批判があるとよいアイデアが出ない。
- 2 「自由奔放」：こんなことを言ったら笑われそう…などは不要。ジョークも大歓迎。
- 3 「質より量」：できるだけ多くのアイデアを。
- 4 「連想と結合」：他人のアイデアに触発され連想を。
また、他人のアイデアに自分のアイデアを加えて新しいアイデアとする。

⇒批判的人間関係のためにも有効

☆順番ブレインストーミング

自由に意見を出し合うといっても、なかなか意見が出にくいことがしばしばです。これを回避するため、自分の順番がまわってきたら否応なく何か発言せざるをえない、というのが〈順番BS〉です。ルールは以下の通り。発言の順番がまわってきたら必ず何か言わなければいけません。「とくにありません」、「前の人が出ったのと同じなのでありません」は御法度。

- 発言内容は一度にいくつあってもよい。ただし、他の参加者が言った意見をくりかえすのは×。
- 自分の前にメモ用紙を置き、他者の発言を聞きながら思いついたことをメモしておくといよい。順番がまわってきたら、このメモを参考にしながら簡潔な発言を心がける。
- メモには、簡潔かつ内容を正確に表現する「1行見出し」（実際には2・3行になってもよい）を作成するよう心がける。ふせん右下に、発言者の名前と発言の日付をメモしておくといよい。

☆「1行見出し」の書き方

あまり長すぎぬよう（20～30字以内）

できるだけソフトで、かつ本質をしっかり捉えた表現にする。

☆質疑応答ブレインストーミング

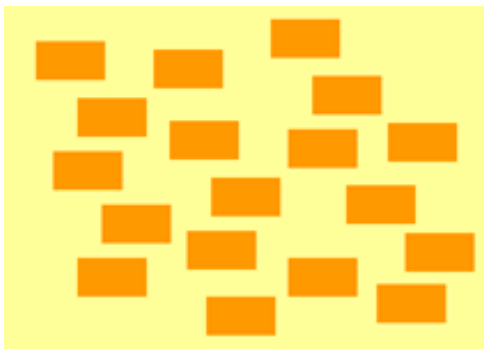
順番BSで出した意見をもとに、もっと多くのアイデアを出すために行うのが<質疑応答BS>です。順番BSで出した意見ひとつひとつについて「この意見について何か疑問の点はありませんか」と参加者に聞いていきます。より具体的には、以下のようなことをめざします。

1. すでに出た意見の意味をはっきりさせる。
2. もとの発言者が、なぜそのようなことを言ったのか、など発言の背景を明らかにする。
3. こうした質疑応答・対話のなかで新しい意見・アイデアを生み出す。
4. 批判ではなく、討論素材をさらに加えることが目的。反対意見があったら、それも意見としてふせん化する。

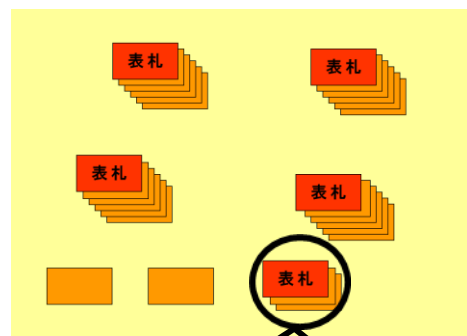
以上のような「質疑応答」のなかで、アイデアを記載したふせんをさらに増やしていきます。

<KJ法の進め方>

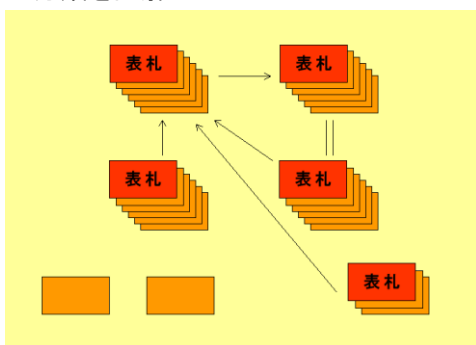
1. アイディアの書き出し (BS)



2. グループング (統合化)



3. 分類を図解化



グループ同士を矢印でつなぎ、相関関係を作っていきます。相関性としては「関係あり」「原因」「結果」「因果」「類似」「反対」などがあります。相関ごとに矢印を変えると分かりやすくなります。

(立命館大学経済学部山井ゼミ HP 参照)

課題発見の視点としての「SDGs」

1 SDGsとは・・・

Sustainable Development Goalsの略称。

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016～2030年の国際目標。

持続可能な世界を実現するための17のゴールから構成され、地球上の誰一人として残さないことを誓っている。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサルなものであり、日本でも積極的に取り組まれている。(外務省HPより一部抜粋)



2 課題発見の視点

SDGsは課題を発見する視点を与えてくれる。持続可能な世界を実現するための17のゴールであるが、逆に言えば、現在世界が抱える課題を挙げているとも言える。

17のゴールをキーワードとして関連する課題を考え、自分事として捉え、課題を解決していこうとする運動は民間企業や行政機関のみならず、教育機関など様々なところで取り入れられている。

3 「教養」の重要性

課題を発見・解決していくためには、これまで学んできた知識やこれから学んでいく知識をつないでネットワークとして理解できる力が必要で、それが本校でいう「教養」である。まず、社会が抱える課題は何かを考える中で、自らの知識や知識をつなげる視点の乏しさを痛感してもらいたい。そして高校3年間で習得すべきものをきちんと習得し、つなげて、俯瞰する力を鍛えてもらいたい。そのために本校SSH事業として企画・編集した教養テキスト「近代とは何か」「私たちはなぜ科学するのか」が皆さんの手助けになると考えている。

「伝わりやすいプレゼンテーション」

1 ねらい

- ・ 聞き手を意識した話し方を身につけ、コミュニケーション能力を高める。
- ・ わかりやすい説明の仕方を知る。

2 設定理由

プレゼンテーションとは、情報の送り手（報告者）が受け手（聞き手）に対して、「情報」や「提案」を正確に効果的に伝達することである。また、プレゼンテーションは、相手を説得するコミュニケーションの一つであり、日本人は苦手な人が多いと言われるが、コミュニケーション能力の一つとして重要視されている。

(1) プレゼンテーションに必要な3つの要素

(ア) Personality [人柄] (イ) Program [内容] (ウ) Presentation skill [伝達技術]

つまり、誰が [人柄]、何を [内容]、どのように伝えるか [伝達技術] ということである。ここでいう「人柄」とは、人間性を指すのではなく、表情や服装、姿勢などを含んでいる。これら3つが合わさってこそ、すばらしいプレゼンテーションとなる。

(2) 聞き手を分析する

聞き手（プレゼンテーションを聞いてくれる受け手）がどんな反応をするか予想することはとても重要なことであるそのためには、以下の2点から聞き手を分析してみる。

(a) 聞き手がどのくらい内容に精通しているか。

発表内容について豊富な知識を持つ人もいれば、そうでない人もいる。聞き手の状況把握を行うことで、準備や練習なども変わってくる。

(b) どの程度の興味を持っているか。

興味や関心を高めるような発表を行うことも重要だが、事前に聞き手がどの程度の興味を持っているかを予想することで、発表内容をより鮮明にすることができる。

(3) 伝わりやすいプレゼンテーション手法

(a) ナンバリング・ラベリング

長々とした説明の後に要約を提示されると、聞き手が頭の中でうまく整理できずに終わってしまうことになる。

○ナンバリング→それぞれの議論（話題）に番号を付け、その区切りと数を明確にすること。

○ラベリング →それぞれの議論（話題）にその内容を端的に示す見出し（ラベル）を付けること。

(b) 間を置く

単調なペースで発表を進めると、聞き手は飽きてしまうし、どこが重要だったかをうまく伝えることができない。発表の中で、「間」を置くようにした方がよい。

○ 特に強調したい内容を話した後に、少し間を置いてから始める。

○ 内容が全く違う場合に、話の切れ目として間を置いてみる。

(c) 持ち時間を守る

事前に自分の持ち時間をきちんと把握しておく必要がある。授業の中で行う場合は、説明の時間をどの程度にするかを事前に検討しておく。持ち時間を守らないと、聞き手はいつ終わるのかという不安感を抱く。

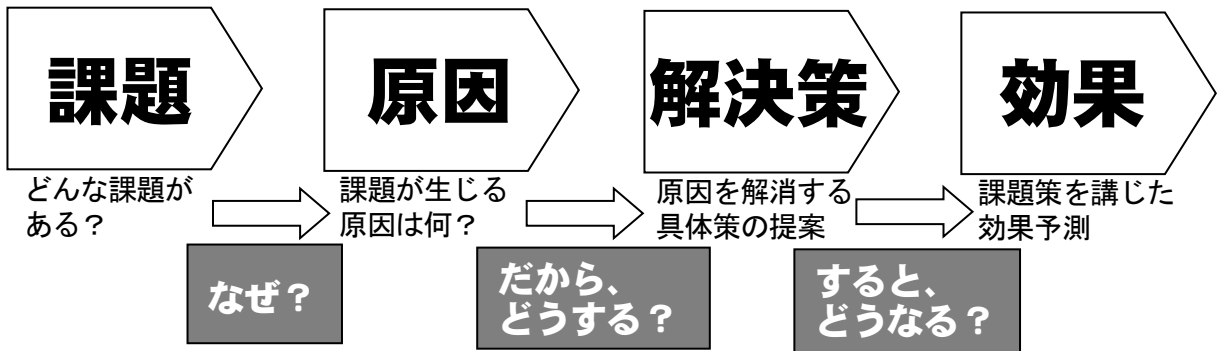
3 プレゼンテーションの流れ（日本が抱える課題）

「日本が抱える課題」プレゼンテーションルール（予定）

- 所要時間 6分：発表 4分 質疑応答・感想 2分
- 資料枚数：6枚
- スライドをA4で印刷し、模造紙に貼って発表（グループそれぞれが発表できるように）

今回は「日本が抱える課題」についてプレゼンテーションを行います。内容が伝わりやすいプレゼンテーションにするためには、論理がシンプルである必要があります。以下のような流れでプレゼンテーションを組み立ててみましょう。

☆プレゼンテーションフロー



それぞれが「なぜ?」「だから、どうする?」「すると、どうなる?」という言葉でつながってくれば、それだけで論理的なプレゼンテーションになります。

☆プレゼンテーションスライド具体例

<p>表紙</p> <p style="text-align: center;">タイトル（テーマ）</p> <p>説明 〇〇について、発表します。</p> <p style="text-align: right;">①</p>	<p>課題</p> <p style="text-align: center;">根拠を含めた 課題説明</p> <p>説明 〇〇は、〇〇なので、〇〇が課題と なっています。</p> <p style="text-align: right;">②</p>	<p>原因</p> <p style="text-align: center;">課題の原因説明</p> <p>説明 なぜなら、〇〇だからです。</p> <p style="text-align: right;">③</p>
<p>解決策の根拠</p> <p style="text-align: center;">原因解決の根拠資料 提示</p> <p>説明 だから、原因を解決するには〇〇が 必要です。</p> <p style="text-align: right;">④</p>	<p>解決策</p> <p style="text-align: center;">根拠に基づく解決策を 提示・説明</p> <p>説明 解決策として、〇〇を実施すること を提案します。</p> <p style="text-align: right;">⑤</p>	<p>効果</p> <p style="text-align: center;">根拠を含めた 解決策の効果説明</p> <p>説明 他県の事例から〇〇のようなことが 見込まれ、課題が改善できます。</p> <p style="text-align: right;">⑥</p>

※書く内容はポイントを絞って、文字は少なく、数値・図表は大きく（説明は言葉で充分）

☆スライドを作り始めるとき（やりやすいやり方で良い。）

- 具体例にならない手書きで構成を考え、形を整えて最終的にパワーポイントへ
- 構成を考えながら必要情報をダイレクトにパワーポイントへ

「発表に対する質問の仕方」

自分が発表をした後に、何も質問がなかったとしたら、どうでしょう。

内容が上手く伝わらなかったのか、この発表に余り興味が無かったのかなど、不安な気持ちになりますよね。他の人の発表を聞いて、ただ黙っているよりも、些細な疑問でも質問をしてはどうでしょう。

そこで質問しようと思っても、なかなかよい質問が思いつかない人へのアドバイスです。発表を聴きながら、次のような事を考えてみましょう。「知りたい気持ち」が、ふつふつと沸き上がってきませんか？

1. この発表の key question は何か？
2. 発表者はこの次にどんなデータ（実験）を提示してくるか、予想しながら話を聞こう。
3. これまで発表者が提示したデータを突き合わせると、あなたならどんな結論を導く？
4. この発表の中で、最も重要なデータはどれか？そのデータに穴はないか？
5. 解決策は、発表の key question に答えたのだろうか？
6. 発表者の解釈以外に、この結果を説明できる「別の解決策」は無いかな？
7. 何か皆が見落としている要素は無いかな？当然あるべき情報が抜け落ちて無いかな？
8. 全てのデータは矛盾していないかな？
9. 発表者の話と、あなたの知っている事実や知識との間に、矛盾は無いかな？
10. この研究発表と、あなた自身の発表や興味と、共通する要素は？
11. 発表者自身はあまり注目して無いかもしれないが、あなたから見ると面白そうなデータは？
12. あなたが、発表者だったら、次にどんなことを調べる？

講義の内容を編集した情報

“遺伝研メソッドで学ぶ科学英語プレゼンテーション”

平田たつみ、タジ・ゴルマン、広海健 著（dZERO 発行 ISBN 978-4-907623-17-3）からの抜粋。

“プレゼン資料のデザイン図鑑”

前田鎌利 著（ダイヤモンド社）からの抜粋。

「www.nig.ac.jp/jimu/soken/courses/OSC/.../Q&A_j.pdf 国立遺伝研究所」より引用。

第3項 「ブックミーティング」

1 ねらい

読書により課題研究に必要とされる知識や教養を身に付け、知的好奇心を高めることを目的とする。継続的に読書を行い、興味ある書籍を選び紹介することで、研究の糧とする。

2 設定理由

知識を最大に深めてくれる糧は、書物である。人はわからないもの、未知なるものからしか学ぶことはできない。自分でもほぼ分かっていることについて書いてある書籍からでは、未知なるものを学んだことにはならず、自分の考えを確認して自己満足するだけである。先人たちの知識が集積し、その知識を簡単に手に入れられるものが書物である。書物の親しむことは、知識を深める一つの手段である。

今回、書物に親しむための一つの手段として、「ブックミーティング」を取り入れる。

対象となる書物は、自分が読んで知的な刺激を受けたものや興奮を覚えたものならば、ジャンルは問わない。また、自分にとっては目新しくない素材でも、他の人に伝えたいことを多く含んでいたり、斬新なものの方や解釈が提示されていたりするものも候補となる。ブックミーティングの目的は、あくまで対象となった書物の特徴を未読の人たちに伝えることなので、自分が読んでつまらなかった書物は通常は対象とならない。しかし、世間は絶賛しているが、自分の解釈は異なるということを主張することはありえるだろう。人に勧めるためには、自分の知見と共鳴する部分を取り上げたり、従来と同類の図書にはなかった新しいものの見方などを発見したり、取り上げた書物のどの点に優れた見解が見られるのか、ということなどを意識して書物を読んでおくとよい。また、自分が読み取れなかった問題点などを確認することもあるだろう。

「ブックミーティング」では、立命館大学情報理工学部の谷口忠大准教授が推奨している「ビブリオバトル」の形式を参考にする。ビブリオバトルは誰でも開催できる本の紹介コミュニケーションゲームのことである。「人を通して本を知る、本を通して人を知る」をキャッチコピーに日本全国に広がっている。

【ビブリオバトル公式ルール】

- 各発表参加者が自分で読んで面白いと思った本を持ってきて集まる。
 - 他人が推薦したものでもかまわないが、必ず発表者自身が選ぶこと。
 - それぞれの開催でテーマを設定することは問題ない。
- 順番に一人5分でカウントダウンタイマーをまわしながら本を紹介する。
 - 5分が過ぎた時点でタイムアップとし発表を終了する。
 - 原則レジュメやプレゼン資料の配布等はせず、できるだけライブ感をもって発表する。
 - 発表者は必ず5分間を使い切る。
- 紹介された本について2～3分のディスカッションを行う。
 - 発表内容の揚げ足をとったり、批判をするようなことはせず、発表内容でわからなかった点の追加説明や、「どの本を一番読みたくなったか？」の判断を後でするための材料を聞く。
 - 全参加者がその場が楽しい場となるように配慮する。
- 全発表参加者に紹介された本の中で「どの本を一番読みたくなったか？」を基準に参加者全員で投票を行い最多票を集めたものを「チャンプ本」として決定する。
 - 紳士協定として、自分の紹介した本には投票せず、紹介者も他の発表者の本に投票する。
 - チャンプ本は参加者全員の投票で民主的な投票で決定され、教員や司会者、審査員といった少数権力者により決定されてはならない。

3 課題

- ・自分が興味を持った本を、みんなに紹介し、「チャンプ本」をめざす。

4 藤島高校ビブリオバトル クラス代表選考会 (9/13 (火))

クラス代表選考会ルール

- 自分で読んで面白いと思った本について発表 **2分**
- 6人以内のグループを作り、発表を聞いてディスカッションと投票を行い、グループ代表選出
- グループ代表がクラス全体に発表し、投票を行い、クラス代表選出

5 藤島高校ビブリオバトル 校内選考会 (9/27 (火))

校内選考会ルール

- 自分で読んで面白いと思った本についてクラス代表が発表 **3分**
- 9つのクラス代表による発表のうち、最も読みたくなった本について投票を行う

6 ビブリオバトル必勝法

①なか → 本・内容	②そと → 声・パフォーマンス	③質疑応答
<ul style="list-style-type: none"> ・選本段階でバトルは始まっている。安易に好みに走らない。本当にオススメしたい、手に取りたくなるような内容の、人生が変わった一冊を。 ○評論などノフィクション (間口が広い。年齢選ばず。) △青春小説・ラノベ (好みに影響。若年層に限るのでは大人に訴えない) △ミステリー・ホラー小説 (好みに影響。最後を言えないオチを「あとは読んでください」「これ以上は言えないのですが」では工夫なし×。オチを言えないことを逆手の取るぐらいの仕掛けをする) ・題名読み、表紙の装丁読みも一つの手。(少しでいい) ・本の中の印象的なフレーズを音読・繰り返すのもワザ。 ・キャッチフレーズを自分で作る、繰り返すのもワザ。 ・「～を○つ言います」と先に整理して、幾つ言うのかを表明しておく、聴衆は集中して聞きやすい。 ・「面白い仕掛け」「ゾクゾクする企画」など、聞いていて謎めいた、ワクワクするような言い回しを活用する。 ・聴衆を魅了するには、想定外の揺さぶりも必要。 ・その本と出会って、自分の何が変化したのか、まだ読んでいない人が思わず手に取りたくなる内容を盛り込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人前でのパフォーマンスが得意な人はこれをメインにしがちだが、あくまで主役は本であることを忘れない。 ・手前の人だけを相手にするのではなく、部屋の奥の隅の方の人にも意識を向け、「の」の形か「Z」の形に視線を流して話す。 ・慌てなくてよい。練習の中で○分以内で話すのをみっちり。 ・次の三つは特に声の大小・抑揚・緩急を変える。 ○「説明」ハキハキ・小さな抑揚 ○「主張」大きく(時にわざと小さく)ゆっくりと、全体を見ながら、場合によっては共感を誘いながら ○「問いかけ」語尾を英語表現のように上げる。イントネーションで質問だと分かるほど大きめに。 ・ジェスチャーを入れる場合はジェスチャーだけでそれと分かるようなものを。複数ある場合は右側と左側で分けても良い。 ・聞いていて心地よいのは表情豊かで基本的に笑顔のプレゼン。眉毛や頬の動きも大事。 ・最終的には録画などで自分のキャラクターを客観的に見つめ、不快感をもたらすものとなっていないか最終チェック 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場内には他校生の応援の保護者・先生がいらっしゃる。大人相手の質疑を想定(若年層だけではなく、壮年層が楽しめる内容なのか、どういう視点で楽しめばよいのか、など) ・印象に残った文章、自分を変えるきっかけになった場所などは付箋をつけてすぐ開いて読めるようにしておく。 ・自分のプレゼン内容についての質問が挙がるのだから、具体的に詳しく説明できるよう、問答を想定しておく。 ・他校の図書室の先生「この本にポップをつけるとしたら、どういうものをつけたら良いですか」というのもあった。

参考文献：<http://www.bibliobattle.jp/>

：<http://www.res.otemon.ac.jp/~okui/nyukei/syohyo.htm>

「藤島高校ビブリオバトル クラス代表選考会」振り返り

9月 日 ()

1年 組 番 氏 名 _____

1 チャンプ本

最も読んでみたいと思った本は、何だったか。また、どういう点がよかったか。

本名
よかった理由

「藤島高校ビブリオバトル 校内選考会」振り返り

9月 日 ()

1年 組 番 氏 名 _____

1 チャンプ本

最も読んでみたいと思った本は、何だったか。また、どういう点がよかったか。

本名
よかった理由

